



# 池の組

村上露子

豫定

月曜日

汽車の機関車塗り。

飛行機製作続き。

野菜の苗の植付け。

火曜日

天氣がよければ、一日を外で。

日曜日に行つた所の子供との話し合ひ。

粘土、——ロボットの機關手。その他。

朝顔の植移へ。

お話し。

水曜日

お庭のけしの寫生。

唱歌。(おにごっこ。)

遊戯。(新らしく、おにごっこ。)

木曜日

塗り繪。(ばら)

人形芝居。(舌切雀を子供にさせる。)

金曜日

海軍紀念日を祝す。

軍艦作り。(筆で描いて、切る。)

樂隊遊び。

昆虫採集。

土曜日

切り紙。(菖蒲。)

唱歌。遊戯。

お話し。(實習科生に、ガリバア旅行記の續きを。)

苗の手入れ。

其の他、機會を見て汽車の完成を急ぐ。

## 五月二十三日（月）

前年度の終りに、二學期の初めからの計畫がやつと出来上つて、お部屋一杯に、お茶の水の動物園を開催した。ライオンを初めとし、象、虎、麒麟、熊、駱駝、水牛、縞馬、鹿、カバ、ワニ、山羊、兎、猿、犬、オットセイ等、實に八十餘匹の動物達は、其の後部屋が狭いので、お愛敬者の猿と虎との他は、皆可哀さうに物置の中におし込まれて居た。此の月になつて、子供等の苦心の作を、もう一度何とか生かしたいと思ひ、子供等に相談の上、動物列車を作つて、それに皆乗せて、何處かへ一度連れて行つて上げようと云ふ事になつた。

さて、汽車に就いて 機關車は、客車は、と色々實際へ見に行つたり、繪や寫眞を調べたり、随分苦心したが、先月の「幼兒の教育」の中に、シカゴ師範大學附屬幼稚園の子供の汽車の寫眞が出て居たが、機關車はビール樽で作つてある様だ。これは成程面白いと、早速方々を尋ねて、やつとビール樽よりは少し小さい釘の樽を手に入れた。

子供等はそれを見てもう小躍りして喜んで居る。さうして動物列車ぢやなくつて、自分等が乗る大きい汽車を作り

たいと云ひ出した。池の組は特別にお部屋が狭いから、如何しようかと心配して居ると、頼一郎さんは「かまはないよ、お外で作ればいゝぢやないか。雨が降れば廊下へ持つて来ればいゝ。」と實に名案を出し、又一方、裕子さんは、「お部屋が狭くなつたら、いつかの動物園の時の様に、お辨當は林の組で戴けばいゝのよ。」と皆口を揃へて大きな汽車を要求する、そこで、初めの計畫を更へて、望み通りの子供の列車にする事にした。

毎日庭に莫塵を敷いて、其の上で仕事を續けて居る。機關車は例の釘の樽で、煙突とお釜とは、ブリキの海苔の丸鏝を釘で打ち付けた、石炭を焚く所と、石炭車とは、蜜柑箱の大きいのに、少し手を加へ、客車は、大きなサイダーの空箱を利用して、一箱に二人宛乗れる様に、具へ付けの腰掛けも出来上つた。全部が空箱利用の汽車だ。

子供等の熱心に依つて、毎日着々と仕事ははか取り、今朝は、この間からの約束で、機關車塗りをした。頼一郎さんに、齋治さんは、バスケットのおしまひもそこそこに外へ飛び出して来た。悪いエプロンに取り更へた小さな職工さん等は、なか／＼手際よく塗る。くたびれては變りな

がら、主に男の子が数人で、約一時間位もかゝつて、全部を眞黒に塗り上げた。(塗料はセルベツトを使つて見た。エナメルよりも乾きが早くていゝ。が、何も殊更そんなものを使はなくても墨汁を塗ればよかつたと後で思つた。)

お部屋の中では、朝から實習科生と一緒に、土曜日の續きのボール紙の飛行機製作に夢中である。翼がつき、坐席が出来、車輪も、プロペラーも取りつけられ、立派な飛行機が出来上つて来る嬉しさに、まだ糊がよく乾かない先きに飛ばして、早速修理を要するのや、出来上つたのを眺めて、翼が二枚あるから舊式ねと云つてゐる者もある。土曜日にしなかつた子供も、すつかり釣り返まれて、お晝前までかゝつて殆んど全部が仕上つた。

一方、先程の塗り屋さんの連中は、何處からか蝸牛を捕へて来て、濡れた粘土板の上に乗せ、二匹を並べて競争させて居る。小さい方が勝つたと、脊の小さい頼一郎さんは大得意。其の中に、粘土板を濡らす爲に持つて来たバケツの水で、お砂場にお池が作られた。深くく掘つてお水を入れる、が砂の事だからすぐに水を吸ひ込んでしまふ。それを又根氣よく、誠さんと登さんと二人して、お水運びに

かゝつてゐる。お池には橋がかゝり、トンネルが出来、トンネルの所から急に瀧の様に水が流れ落ちる様になつてゐる。お山を作つて、細い川があり、今度はその川上から水が流れて池に入り込む様に、工事が出来た。橋にもお砂で欄干が付けられ、積木の電車が勢よく走つてゐる。網の目の様に地下鐵道も出来た。この地下トンネルは非常に巧妙なもので、池の組の男の子獨得のものである。それはかうだ。——この間お庭の裏の木の切株に、誰れかゞ無数の白蟻を發見した。「先生大變々々」と呼びに来て。そこは白蟻のお家で、灰色で羽の生えたのや、自くて頭の先きが鋭い缺の様になつてゐるのが、やつと一匹が通れる位の穴から、出て来る！ 出て来る！ 次々に上の方に引きも切らず出て来る。「あの地下鐵みたいな穴の中に入つて見たいね。」と誰れかゞ、「穴の中はとても廣いんだよ。色んなお部屋があつて、おごちさうだのなんかゞしまつてあるの。」と夢中になつて話してゐる。私がそつとお菓子を持つて来てやつたら、白蟻は大喜びで、皆たかつて来て、少し宛くわへて、地下トンネルの中に運び去る。暫くたつて、四五人の男の子はお砂場の方へ走つて行つた。もう今日まで一週

間餘り、毎日々々、あの白蟻の様な地下トンネルを作つてゐる。上は平で、穴の中は縦横のトンネルが通じてゐるわけだ。この間等、誰れかにこわされるかと心配で、友達が遊ぶと呼びに来て、そこを離れる事が出来ない。小さい組の人が番をして上げようと云つてもまだ心配で、とう／＼及川先生にくれ／＼もお願ひして、やつと離れた。お晝のお辨當の時は、久しぶりで賑やかだつた。小さい組の終りからずつと病氣で休んでゐた哲夫さんと、正隆さんとが、二人そろつて今日から来たので、永い事お休みだつたお友達には、特に皆が親切にする。何でもないので皆が名前を呼んで見たり、ほら汽車がこんなに出来たでせうと、得意になつたりしてゐる。

午後丁度曇つてゐたので、家から持つて来た、西瓜、赤花隠元豆、絲瓜、瓢箪の苗を、花壇の縁と、蜜柑箱に植ゑた。

### 五月二十四日（火）

外へ！ 外へ！ 天氣快晴。一日を外で過す。

お庭はまさに花盛り。けし、シヤスターデージー、花菱草、シラン、バラ、紫露草、白鳥華、虫取撫子等。

五月の朝のうるほひを帯びた大氣に、又何て可愛らしく

開いてゐるんだらう。朝早く来た齋治さんは、如何にも氣持よささうに花壇の間を靜かに歩き廻つてゐる。「このけしの花、昨日までまだおじぎしてたんだよ、それにもうこんな！」と大きな聲で呼んだので、お部屋の中で繪本を見てゐた四五人は、急いで外へ出て行つた。女の子が二人、水も滴るばかりの眞赤なけしの花片を両手で受けて居るので、どうしたのかと思つたら、「花片が落ちて来るまでかうして待つてゐるの。」と云ふ。

五六人が草の上に坐つて、日曜日に遊びに行つた時のお話しをしてゐる。一日の日曜を挟むと、子供等は、まるで幾日も會はなかつた人に話しをする様に、今日も又思ひ出しては、次から／＼色んな話しをする。まるで夢を追ふ様に、心は何時の間にか想像の世界へ入り込んでしまふ。

此の間、「汽車が出来上つたら何を作りますか」と皆に相談をした。「シグナル」、「レール」、「停車場」、「踏切」、「驛の名前」、「お辨當や色んな賣物」、「鐵橋」、「トンネル」、「切符」、「汽車の車庫」、「ロボットの機關手等と特に汽車の事に就いて詳しい男の子が云ひ出した。丁度昨日、汽車の車が出来上つて来たので、これを取り付けるには鑿を使は

なければならぬので、實習科生に大體作つて置いてもらつた。皆嬉しさうに動かして見てゐる。

机も椅子も、皆藤棚の下へ持ち出した。ロボットを作るので、大きな粘土の固りを持つて来ると、子供等は喜んで粘土板をそれ／＼運んで来てくれた。目的が解つて居るので、頭や胴や、手、足、帽子、其の他の附屬物は皆お互ひに相談の上で、分擔仕合つて作る事が出来た。蕊には竹を入れて、しつかりさせた。とても可愛らしいロボットが出来た。其の粘土の上から、丈夫な日本紙を細かくちぎつて、糊で一面に貼り付けた。さうすると、繪の具がよく塗れて、粘土の脆いのも幾分防げる様である。

女の子が七人程で、兎のお家を粘土で作つてゐる。大きな兎から小さな兎まで、凡そ十匹位も居るか。藤の葉を取つて来て、夫でとてもいゝ草履が出来てゐる。草の葉を粘土に挿して、人蔘やら、色んなおごちらうが並んでゐる。其處は八百屋さんで、おばさん兎が店先きで番をしてゐる。籠を口に咬へて、是からお買物に出掛けるお女中さんやら、バスケットを持つて幼稚園に行くお嬢さん兎もある。自由共同製作で、随分延び／＼と作られて面白いと思つた。

先月の二十一日に、ルコー草の種を、全部の子供が一鉢宛植木鉢に蒔いて、毎日々々、お水をやつたり、草を採つたりして、今芽が出るか出ると、楽しみに待つて居たのに、一ヶ月立つた今日まで、まだ芽が出ない。別の苗床に朝顔の種を澤山蒔いて置いたのが、丁度三十本餘りも二葉が出て来たので、ルコー草のかはりに、植木鉢に一本宛、植ゑることにした。松葉牡丹の芽が、ぎつしり生えて来た。

お山の上で、「動物の國」のお話しをする。もう一つして、としきりにせがんだが、お辨當があんまり遅くなるので、大急ぎでお仕度にとりかゝる。皆お机を拭いたり、お盆を拭いたり、よく手傳つてくれる。涼しい藤棚の下でおしく戴いだ。

午後、男の子は大積木で軍艦を。女の子は、廣いお砂場で、龍宮遊びをしてゐる。お砂で、大きな龜が作つてあつて、それに細い竿をかついだ浦島さんがまたがつてゐる。

人形芝居の光景をそのまゝに表して、面白い。  
一日外で暮して、皆よく陽にやけた。

### 五月二十五日（水）

弘毅さんが、昨日大きな水槽の中の金魚を捕へたとかで、

さう云ふ譯でもないんだらうが、今朝とう／＼可哀さうに死んでしまつた。それで、池の組の子供等は、とても／＼金魚に同情して、皆でお庭の隅にお墓を作つてやると云ひ出した。浅い穴だと、いたづらさんに掘り出されると云ふので、深い穴を掘つて埋めた。誰れかど三角形の大きな石をうん／＼云ひながら持つて来て、立てゝやつた。きれいなお花が具へられた。お砂のお團子も具へられた。さうしてかはる／＼可愛い手を合せておがんでゐる。弘毅さんに、「よく金魚におわびを云つたら、堪忍してくれるよ。」と皆で云つてゐる。何とやさしい心持よ。

けしの花を寫生する豫定で、お庭に皆お椅子に、お帳面やクレオンを持つて來たが、金魚のお墓が餘程氣になると見えて、四五人を除く外、誰れも彼れもお墓の廻りに集つてお墓を描いてゐる。

皆揃つてお部屋でお唱歌。新らしく「おにごっこ」(日本教育音楽協會編)を教へる。歌詞も、調子も輕快なので、非常に歌ひ易い。強弱もしつかり付けて、元氣に、氣持よく歌ふ。カナリヤ、電車と汽車、お砂のトンネル、は一人宛でもよく歌へる様になつた。

お遊戯をする。今日の先頭は登ちやん。登ちやんは、小さい組の時は勿論、大きい組になつても今月の初めまでどうしてもお遊戯をしなかつたのに、或る機會からちよつと入つて見る氣になり、今では實に愉快この上もない様な顔をして、夢中でやつてゐる。「おにごっこ」(土川五郎氏振)を新らしくする。子供は面白さうにする。其の他、「お砂のトンネル」、「シャボン玉」、「汽車ポツポ」、「蝶々」、「進軍」、「こまどり」、「あなたのまね」、「牛若丸」、「ものまね」——これは、行進をつゞけながら、色んなものゝ眞似をするのである。最も好むものは、たぬき、兎、象、蛙、あひる等の動物の眞似で、随分よく各特長をつかんでゐる。次は、おばあさん(おぢいさんと云つたら、半分位がシャン／＼歩き出したどうしたのかと思つたら、おばあさんでなくちや、お腰は曲つて居ないよ。で大笑ひ)。お角力さん等。「お洗濯」、「お洗濯の動作を皆思ひ／＼の形に表す、リズムに合せて、表現は全く子供の自由である。これをする時には必ず申し合せた様に、ハンカチを出して一層感じを表はしてゐる。「象」——今日は皆手を連いだまゝしやがんで、象の柵とし、一匹の象が眞中に出て、ピア

ノに合せてのそく歩き廻り、好きな所へ行つておじぎをする。された人が又象になる。と云ふ風にして見た。象はともうまい。途中で、にゆつと鼻をのばして、餌を取つて口へ持つて来るの等真にせまつてゐる。「ボートレース」

——皆がボートレースの選手になつて、三組に分れ、子供の審判官が一人出て、色々の合圖をする。列が曲つてゐたり、横見をしたりすると、すぐに審判官が注意する。そして、一着二着をきめて、一着の組はずつと前に進める。早くゴールに入つた組が優勝と云ふことになる。「最後に一人宛スキップ。」

午後、昨日のロボットが乾いたので、ドロ繪具を塗る。帽子は黒、上衣は黄、ズボンは緑にしたが、紙を貼つてあるので、色がきれいに塗れた。

### 五月二十六日（木）

朝、來た子供も來た子供も、大急ぎで外へ出て行く。どこへ行くのかと思つたら、昨日の金魚のお墓へお詣りに行くのだ。お墓には、いつの間にかちやんと新しいお花がかへてあり、廻りを積木で圍ひがしてある。

お部屋に、いゝバラが生けてあるので、それを見て、バ

ラの塗り繪をする。あんまりいゝ香りがするので、塗り繪のバラもきれいに塗つたら香ひがすると思つてか、皆、にほつて見てゐる。

豫ねてお約束の様に、子供に人形芝居をしてもらふことにした。大きな舞臺を持つて來て、お人形も、バックも皆私等がする様に用意して、子供に渡す。齋治さんがお爺さん、弘毅さんがおばさん、陽一さんが雀で、「舌切雀」をする。初めてさせて見たが、人形の使ひ方と云ひ、臺詞と云ひ、上手なのに感心した。（大抵初めてすると、云ふ方ばかりに氣が取られて、人形が棒立ちになるものだが。）先づカチ／＼鳴らして、幕が開く。箒をしきりに動かして、「ばあさんや、もうあの寒い／＼冬がちきに來るのう。」と菊池先生の口調をそのままに、「わしは年をとると冬は何より閉口ちや／＼」。雀がお糊をなめる所「チュツ／＼」、あゝおいしかつた／＼。まあ何てこの糊おいしいんでせう。こんなおいしいの食べたことないわ、ほつべたがおつこちさう。」おばさんが、「まあ仕様がないう雀ですこと、そんないちぎきたなしのお舌は切つてしまひませう。チョコキン。」「舌切り雀、お宿は何處だ。」と尋ねて行く。雀踊りに、葛籠のお土

産、おはあさんが、「ところで雀や、ばあさんは大へん急ぐので、濟まないが、お土産だけくださいな。」と云ふ所等、皆それ／＼の先生そつくりの聲を出して、實に要點をつかんでゐる。最後に、私が雀になつて、「小さいパン」のお話しをする。よく聞いてゐる。

食事後、早速男の子は、機關車を遊戯室に持ち出して、積木でレールを作つて、おしてゐる。積木のレールは、脱線して顛覆の恐れがあるので、チヨークのレールにする様にした。何しろ、珍らしいのと、嬉しいのとで、遊戯室中馳け廻つてゐる。見物人で大變。交通巡査が必要になつて来た。旗を頂戴と云ふので、新庄先生の所から、日の丸の旗を頂いて來たら、「こんな旗だめだ。赤と、青でなくちゃだめ。」と云ふ。成程、交通信號は赤と青だ。そこで早速模造紙で作たら、蜜柑色の、注意の旗もいるんだと他の一人も一生懸命に作つてゐる。

お外へ出して、お歸りまで遊んでもいい事にした。

交通巡査の命令に従つて、汽車をおして行く人は汗だくく。

他所の組の應援も入つて、大入滿員。まだ未完成な汽車

の中からこんなに景氣がいいのだから、出来上つた曉には、どんなに大變だらう。

今日は風が強い爲、特に、含嗽をよくする様注意する。

### 五月二十七日（金）

海軍記念日。

朝、早く來た人から大きな軍艦を筆で書かせる。航空母艦、戦艦、巡洋艦等思ひ／＼の軍艦を、如何にものびのびとした線で描いてのける。日頃小さい貧弱な繪を描いてゐる人等も、今日は、四ツ切書用紙一杯に大きく、大膽に、生々と筆を運んだので嬉しかった。乾いたらそれを切りぬく。水色の廣いラシヤ紙の上に立たせる。丁度雄大な觀艦式の様。お部屋の中の上空に、先日作つた二十數臺の陸上飛行機が並んでゐる。風の吹く毎に、左右にゆれて、實に空と海との壯觀だ。

扉の外に、「海軍記念日」の幟を立て大勢の人が歌ひながら歩いて居る様なので、男の子は門の所まで見に行く。小學校の生徒の行進だつた。男の子は、もう有頂天になつてさわぎ出した。

忠ちゃんがよくお仕事をする様になつた。其上、今日は



初めて、(幼稚園へ入つて以来)女の子のおまゝごとに入つて遊んで居る。今まで、山の組の兄弟とばかり遊んで、他の友達とはまるで無交渉だつた。が兄弟二人で、忠ちやんが赤ちやん、もう一人がお兄さんになつてすまして居る。之で池の組ではお友達と遊べない子供が一人もなくなつた。太鼓や、タンポリン等の樂隊道具を持つて、全體で本校へ遊びに行く事にした。特に男の子は大喜び、可成り重い太鼓を首に掛けた、樂隊屋さんを先頭に、先程の小學生の行進を其の儘に、色んな歌を歌ひながら樂隊に合せて歩き出した。

ぎつしり生えたクローバの上で、ポートレースが始まつた。三人の樂隊屋さんは、小山の上に腰を下して、盛んに鳴らして、應援してゐる。男の方の組が初めに負けたら、樂隊屋さん等は悔しがつて、皆選手に成てしまつた。自分等が入らないから負けたんだけつて、物凄く勢で漕ぎ出した。草原の上を、兎になつて跳ね廻つたり、一人で太鼓をたゝきながら、大きな聲で歌つたり、又それに合せて、皆で歌つたり、全くそこは、何の障害もない子供の天地だ。

木蔭で、笹の葉で、笹巻きを作つたり、クローバで首飾

りや、花輪をこしらへてゐるグループもある。

小さい組が、お辨當を持つて、遠足に來た。それを見て「池の組でも此處で戴くの。」と云つて聞かない。可成り道が遠いから、幼稚園まで、又取りに歸るのはどうかと思つたが、皆あまり元氣だから、大急ぎで、お辨當だのお盆、お茶等を運んで來た。「おいしい。おいしい。」と云ひながら食べて居る。「僕足らないや。」と云つてゐる子供も居る。

昆虫採集に興味が出て、この頃、外に出ると、皆で、色んなものを採つて來る。毛虫に、てんとう虫、たま虫、でんでん虫、みゝず、あぶ、蟻、根切り虫、草かげらふ、小金虫等。この間採つたてんとう虫が黄い卵を生んで、幼虫が生れて來た。みゝずは、龜にやる事に定めてゐる。あぶら虫は、てんとう虫の御馳走。採つて來た虫をどうするかと云ふと、たま虫、でん／＼虫、てんとう虫等の可愛らしいのは、大事さうに紙に包んで、家へ持つて歸る子供が居る。其の他は、お歸の時に、にがしてやる。

今日は實によく遊んだ。五月のピクニック、子供等は疲れする事を知らなう。

五月二十八日(土)

朝早く来た二三人は、お部屋で繪本を見て居た私等の所へ、はあ／＼云ひながら馳けて来て、「金魚のお墓が壊れちやつたの。」と云ひに來た。早速皆で修繕をする。もう今日で四日、子供等は朝先づお詣りする事にしてゐるらしい。

菖蒲の切り紙をする。初め五六人で切つて居たのが、お砂場の子供も、おま／＼ごとの子供も、皆入つて來たので、満員になる。花の恰好から、葉の先きが尖つてゐる所まで、よく注意深く實物を見ながら切る陽一さん、さつさと切つて、さつさと貼つて、片付けてしまふ志津子さん、大膽にやつてのける養一さん、説明が長くて、手があまり果取らない者、お隣りの人の眞似ばかりしてゐる者、だまつて、器用に鋏を動かして居る者等。早く出來た二三人は、紙屑を拾つたり、色んなお片付けのお手傳ひをしてくれる。お遊戯室でお唱歌。「おにごっこ。」「カナリヤ。」「電車と汽車」等。其の時、五十人位も參觀人がぞろ／＼入つて見えたので、注意が稍／＼散る。

遊戯は例のもの。象の柵を作つて、一人象におなりなさいと云つたら、皆口々に、「動物園には、雄と雌と二匹居るわよ。」と云はれた。終りに一人づつするスキップの代り

に、一人づつこまどりをする。二人手を連いでゐるのはお友達をする。

お部屋で、實習科のBさんに、ガリバア旅行記のこの前の續きをしてもらう。「ガリバアのお話しの續きよ。」とお外の子供等呼びに行くとき、大喜びで馳け込んで來た。大きい組になつてからは殊に探險的な、然も長いお話しを非常に好む。續きをしても、前のお話しは皆よく覚えてゐる。今日はあまり長くない途中で切り上げて、次を約束する。日曜日には皆の朝顔が、水も何も戴けなくて可哀さうだからと、油糠の肥料をそれ／＼子供等にやらせた。汽車の箱を塗るのに、なか／＼氣に入る様ないゝ色が出ない。地塗に、一度胡粉を膠で溶いて塗つては、と伺つたので、今日はさうして見た。箱の内側は、クリーム色の、マンローを塗つた。これは色はいゝが、水に剥けるので、外に塗るわけには行かない。塗料としては、エナメル、ラツカ、セルベツト等色々あるが、随分高價につくので、何とか考へる餘地がある。

今週は非常に出席工合がよく、缺席者は鈴木さん一人だけ。それも風邪で、來週から多分來られるらしい。